

新年あけましておめでとうございます。ことしもよろしくお願いいたします。さて当院では令和 4 年 12 月に、降雪時の駐車スペース確保のため、病院建物脇のヒマラヤ杉・桜を撤去、駐輪場を移動・移設し、計 26 台分の駐車場に変えました。さらに病院出入口付近 3 か所に消雪のための地下水を利用した設備を設置しました。多少とも皆様方のお役に立てれば幸いです。

去年は一年間新型コロナ感染に翻弄されましたが、今年もこの感染症が終息する可能性は低いと思います。国はこの 4 月から、現在の 2 類から 5 類相当の感染症として扱いを変えそうですが、そうした場合“医療関係者は感染していても働いてよい、医療関係者から入院患者さんに感染させてしまい(わざとではなく)・その方が死に至った場合でも責任を問わない”ということ为国が明示しなければ、病院・医療関係者が今以上に疲弊するものと憂慮しています。



過去の当院の新春の飾りつけです。今年のもは、病院に直接見に来てください。

さて日本は今、急激な少子高齢化社会となっています。私が医師になった 40 年前と比べると、75 歳以上の人口はなんと 4 倍になっています。また一方、コロナ禍の影響もあって、国が想定していたよりも出生数の減少が著しく、150 年後の日本の人口は、今の 4 分の 1 の以下の 3000 万人を割ることでしょう。急激な人口構成の変化・少子高齢化・働き手の減少は確実に起こり、これからの日本の社会に様々な問題が

生じることは想像に難くありません。医療においては、今しばらくは有病率の高い高齢人口が増え、医療に求められるものも増えるのに対し、病院の働き手は減少するものと思えます。また医療構造改革・地域医療構想で、病院の再編・統廃合なども起き、住民の皆様が望む医療が受けにくくなる可能性もあります。

今後も、行政や他の医療機関なども含めて皆で知恵を絞って、可能な限り地域住民の方々に質の低下がない医療を提供していきたいと思っています。一方、住民の皆様方も適正な受診時間・救急受診などを心掛けるなど、医療機関に対して協力いただかなければ、我々も適切な医療が提供しづらくなるという事も理解していただきたいと思っています。

国が当初考えていた地域医療構想のゴール、2025 年は目の前で、もう待たなしの時期になっています。コロナ禍でもあり、厳しい医療情勢が続きますが、住民の皆様方と共により良い地域社会を形作っていけるように努力していきたいと思っています。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。**(JA 広報誌の令和 5 年 1 月号の私の挨拶文からほぼ引用しました)**



忘年会などの宴会がなくなり、寂しい日々を送っています。私は当院総務課の方々とともに、時々、過去の忘年会の写真などととともに、お菓子を全職員に配ったりしています(私の一人忘年会??)。病院長になって 15 年たちますが、職員の皆様からは今までで一番感謝されているようです。

発行責任者・文責;豊栄病院病院長 宮島 透